

# うまく落ちる練習

作：三野新

投身練習場



*Fallwell Inc.*

FREEFALL GROUND

# うまく落ちる練習

作：三野 新

## 作品概要

本作は、2018年8月に発表した映像・パフォーマンス『アフターフィルム』、そして同年10月開催の「にんげんレストラン」（Chim↑Pom企画・於旧歌舞伎町ブックセンター）に発表された、三野のソロパフォーマンス「『息』をしつづけている」を発端にして制作されました。また、同会場から至近の通りで、何度も繰り返された投身自殺行為に遭遇した三野本人の衝撃的な経験も元になっています。

東京オリンピックに向けて最高潮に達している再開発によって、仮設的な工事空間が乱立する「劣化した都市の風景」―― その中に表現として、そしてフィクションとしての介入の手立はあるのか。「劣化した風景の中で、個人が生きるためイメージの襞（ひだ）」を模索しながら、現代社会における「恐怖の予感」をテーマに、その手触りを新たな表現手法を用いて制作・発表する試みです。

## 作品内容

人間が絶滅に向かう世界で、「わたしたち」の頭のなかは、これからすぐにどう死ぬべきなのか？ということはいっぱいだ。今日も「投身練習場」と呼ばれる健康増進パークは、リラクゼーションミュージックと仮囲いの部屋に囲まれた「清潔で安全な」場所の中で営業している。うまく落ちられなかった「わたし」の『息』は誰にも聞こえることはなかった。

「わたし」は誰もいなくなっても、投身練習を続けていく。「うまく落ちる」練習を続ける「わたしたち」は、身体に何を宿らせて、落ちていくのだろうか。そこには、絶望から始まり、絶望で終わるという、また別のあり方としての希望を描き出そうとするものだ。

# 『うまく落ちる練習』

作：三野新

## 登場人物

人間 (A→D→B→C→・・・)

吸血鬼 (B→C→A→D→・・・)

人形 (C→A→D→B→・・・)

幽霊 (D→B→C→A→・・・)

上記どれでもない、人としての主体A,B,C,D

サミュエル・ベケット『息』より抜粋

(長島確/訳,白水社「新訳ベケット戯曲全集2」より,p.151,2018年)

幕。

1、かすかな光が雑多なゴミの散乱する舞台を照らしている。そのまま約5秒。

2、かすかな短い泣き声、とすぐに、息を吸う音といっしょに光がだんだん強まり、ともに10秒かけて最大に達する。静かになり、そのまま約5秒。

3、息を吐く音といっしょに光がだんだん弱まり、ともに約10秒かけて最小に達すると(1と同じ光)、すぐに先ほどと同じ泣き声、静かになり、そのまま約5秒。

幕。

森の中で、ある一本の木が倒れたとする。

しかし、その木が倒れる音は聞こえるのだろうか？

本当に木は倒れてしまっているのだろうか？

—ジョージ・バークリ

## 夢について

ほとんど見えない薄明かり。投身練習装置の下に出演者が全員寝ている。全員スマホを力なく持っているが、目は開けている。上手に演出家(あるいは演出家役)と機材機と機材があり、そのすぐ脇には舞台美術のマケット(1/10~1/20程度の大きさ)が机の上に置いてある。下手にはプロジェクターから投射されイメージが映し出される壁。投身練習場と観客席の間にはいくつかのバリケードが並んでいる。

舞台上では、エレベーターミュージックが流れている。(ブライアン・イーノ“Music for Airport”を参照だが、演出家の意図によって変えて良い)

機材機より小型ドローンが飛んでくる。そのドローンが観客席も含めて一周したあと、そのうち主体Aの上に目の前に止まる。止まるとすぐに聞き取れるか取れないか、呼吸をする音が聞こえる。

主体A (呼吸の音、だんだん人の声となっていく)

あ、あ、ああ～。あの。あの。わたし。すいません。わたし、あの、あの、すいません。  
あの、わたし、すいません、すいません！あの、わたし！あの、あの～、すいません、あ  
の、わたし。あの\_\_\_\_\_

中断するように、途中でドローンは飛び立ち。しばし逡巡し、主体Cへ。今度は最初から明確に聞こえる声。

主体C だいじょぶ、だいじょぶ、全然、ぜんぜん、だいじょぶ、まだ、まだまだ、まだ、  
これ、まだ、これから、これから、これからで、いつでもできる、いつでも、いつでも、  
絶対、絶対、いつでも、できる、できる。がががが、がんばれ、がが、がんばれ、がんば  
れ。大丈夫。わたしは、できる、できる、できる、まだ\_\_\_\_\_

中断するように、途中でドローンは飛び立ち。しばし逡巡し、主体Bへ。

主体B あ~~~~~!!!! ああ、、ああ、、あ～～、ああああ～、あ～～、  
あ~~~~~!!!! あ、あ、あ、あ、あ\_\_\_\_\_

中断するように、途中でドローンは飛び立ち。しばし逡巡し、主体AとBの間に降りる。（主体Cは飛ばす）。

A ヤバい。・・・やっちゃったかも

B ・・・

A なんか、さっきヤバかったんだけど、

B 起きてんの。

A うん、なんか、夢で、多分夢なんだけど、すごいさっき、落ちてて、夢見てる、ヤ  
バあってなって、

B うん

A それで、ヤバあってなったままなんだよね、感じが、今も

B そっか

A うん

B 寝れた？

A 一瞬。笑えなかったかも。

B うん、、、え？

A 最初は人間かな、って思ったら、じつは人間じゃなかった、みたいなこと、ない？

B うん

A 人間みたいなカタチ、してたから、人だって思って、ずっと目で追ってたんだけど

B うん

A それがなんか、全然、家の影、とか、水の跡、だった、みたいな・・・そんな感じ。

B 逆もあるよね？

A 逆って？

B いや、なんか、、、

ドローンが再び飛び上がり、機材エリアまで戻ってくる。そうすると、主体Bが起き上がる。照明がつく。

B 疲れた・・・

主体Aも起き上がる。

A やる？

B あ～やだ～

A んじゃ、わたしがやるわ

B え～やだ～

A え～？

主体Bは満面の笑み。もう一方は、無表情。

## 投身練習場

寝ているDをAとBで無理やり起き上がらせて、投身練習場のマットに座らせる。Cは起きている二人から逃げるように、勝手に起き上がり、人形役となり、遠目から二人を観察する。Bは吸血鬼役となり、投身練習場に登る。遠目から観察していた人形、Aに近づく。流暢な早口、異様な明るい声、対象をあまり気に留めず、極めて多動的な身振り。Aあるいは人間役と人形役との会話は、通じているのか通じていないのか、以後、ずっと不自然な間を持ち続けること。

人形 今回のご来場いただきまして、ありがとうございます。早速なんですけど、ご利用に際しまして、いくつか、諸注意の方が、ございます。

人間 はい。

人形 まずはですね、あのポケットの方などにですね、鍵ですとか、腕にですね、腕時計などをおつけの場合はですね、先に外してからですね、からだにぶつけて怪我をする原因になったり、もしくは傷ついてしまうかもしれないので、基本的に外していただいています。それで貴重品はお手元で管理していただいてもいいんですが、心配な場合こちら、わたしのほうに預けていただくようお願いしてます。で、続きまして、こちら上がっていただいて、すぐのところ更衣室がありますので、お着替えされるようでしたらこちらの方をご利用ください。お着替えしてのご利用ですよ？（Dは更衣室と言われる）

人間 そうです、ね？

人形 じゃあ、お着替えして準備できましたら、スマホだけお持ちいただいて、こちらにいらしてください。そこでインストラクションの方、行いますので。

人間 はい。

人形 それでは、本日はどうぞ、よろしく申し上げます。

人間 よろしく申し上げます。

Aはまだその場を動かさないでいるDの服を一枚剥ぎ取って、自分で服を着る。その結果Aは人間役となる。その間、以下人形のセリフは来場者に向けて発せられる。先ほどより落ち着いた身振り。

人形 今回はご来場いただきまして、ありがとうございます。見学者のみなさまに対しても、いくつか諸注意の方がございます。携帯やPHSなど音の出る機器をお持ちの方、ぜひね、マナーモードにさせていただくか、電源を切っていただくか、そのようにしていただくことをね、ぜひね、お願いしております。で、続きまして、緊急時に関しましては、係りのものがですね、誘導いたしますので、慌てずにその場でお待ちください。後方に非常階段がございます。またですね、飲み物や食事などは、他の見学者の方のご迷惑にならない限り、ばんばん買っていただければと思います。入り口手前の方で販売しております！ぜひね、買っていただければ。続きまして、だいたい、見学時間は、60から75分程度を予定しております。トイレ休憩などはございませんが、途中で行っていただいても問題ございません。え～、ご案内は、以上となりますが、見学終わりしだい、質問などがありましたらですね、気軽に聞いていただければ、とぜひね、思っておりますので、えー本日はどうぞ、よろしく申し上げます。

その間、人間役となったA、人形役を見つめる。振り返る人形役。再び多動的な動きに戻り、セリフを発する。

人形 はい、それでは、早速ですけれども、インストラクションの方、始めていきたいと思えます。はい。ではですね、簡単なルールというかですね、フォーリングについての簡単なルールの方をですね、お話ししたいと思います。はい、で、単純にですね、そのまま落ちちゃうとですね、遊び半分で、ないとはもちろん思うんですけれども、はい、基本的にはですね、危険な行為となるのと、社会通念上もですね、よくない、ということになりますので、ぜひね、ちゃんと入念な儀式をした上でですね、ぜひやる必要がある、ということをまず、ご理解いただきたいと、はい、まずそのようにお願いしております。

人間 はい。

人形 では早速ですけれども、まず儀式の方からね、はい、一緒にやっていきたいと、そのように思えますけれども。

人間 はい。

人形 では基本からですかね、息の仕方というのがあるんですけれども。

人間 はい。

人形 まずはですね、5秒間、息を止めます。で、止めた後、10秒間かけて、今度はですね、10秒間、息を吸って、息をすう～っと吸います。で、吸った後はですね、5秒間また止めます。5秒間ですね。で、止めたら、その後、今度は逆に、逆にというか、ですね、10秒間、かけて、また今度は息を吐いていく、息を10秒間かけて吐いていく、ふう～と、いう感じでですね、吐いていく。で、ですね、10秒間かけて、吐いた後はですね、5秒間止めます。5秒間、ちょっと辛くなるんですけど、ぐっと、ぐっと、はい、止めます。それをですね、止めた後は、もう、すうはあ、もう、吸って吐いちゃって、大丈夫ですので、いったんです、ぜひ、息を整えてもらって。それからまたさっきの5秒間、息を止めて、10秒間吸って、5秒間止めて、10秒間吐いて、また5秒間止めて、っていうのを繰り返すんですね。はい。

人間 えっと、まず5秒間・・・？

人形 そうですね、そうしましたら、まずは一緒にやってみましょうかね。はい、それではやってみましょう。まずは、はい、こういう風に、深呼吸して息を整えます～・・・はい、いきますよ～、はいまず5秒止めます～！3、4、5。はい吸います～～！3、4、

5、6、はい、もうちょっと、9、10、はい息止めて！3、4、5。はい吐く～、3、4、5、6、はい頑張って！9、10、はい、息止める、3、4、5。はいお疲れ様です～。いかがでしたか？

人間 はい。・・・吐くのがちょっと、大変というか。

人形 はい、いきいきさせていきましょう。もっといきいきしていければ。

人間 はい。

人形 最初わかりづらい部分あるかと思いますが、音、聞いてもらいたく、音ですね、秒数ごと、音が出ておりますので、それを聞きながらやっていただくと良いかと思いますが、はい。ぜひね、イヤホンで聞きながら、ぜひゆっくりやってみてください。

人間 はい。（イヤホンをする）

人形 はい、それをまずやるのが基本のですね、ルールというかですね、儀式の前提となってくる部分ですので、しっかりやってもらって、それで、あちらがわの壁、こっち側と若干ルールが違ってらんで、若干ね、難しめの課題が多くなります。こっちの課題で、ぜひね、何本がやってね、できて、もうちょっと本気なのをやってみたいかな、違うのやってみたいかな、向こうのね、ルールの方も説明しますので、ぜひね、まずはこっちのちょっと、課題やさしめでやってもらって、で、体を温めるのも、ぜひね、他の課題もいろいろ触ってみてください。

人間 はい。

人形 じゃあちょっとね、インストラクションの方はね、このぐらいにしておきますんで、もし途中でわからないところとか、スタートの仕方とか改めてやり方とかどうやるんですか、ってのがあればね、聞いていただければね、お答えしますのでね、いろんな課題ね、できたら触ってみてください。じゃあね、インストラクションの方はね、このぐらいにしておきますんで、今日は色々触ってみてください。

人間 はい、わかりました。

人形は人間から離れ、下手で、スマホを見ながら休憩。人間は、投身練習場で吸血鬼を見つめている。吸血鬼は人形を見つつ、人形が休憩に入った瞬間を見た後以下セリフ。人間はA、吸血鬼はBに戻る。Aはイヤホンを取る。

B え、何の話だっけ？

A あっ。

B これ・・・。

A これ・・・は、人間？じゃない、んだっけ？

B うん。

A 人間みたいなかたち、してたから。

B モノ？

A うん。

B モノだ。

A これは、前に、わたし・・・だったもの？

ものと呼ばれたDは、幽霊役となって動き出す。ドローンが投身練習場に飛んでくる。人形役、休憩からすぐに戻る。A,B役も、それぞれ人間と吸血鬼役に戻る。Aはイヤホンを再びつける。

人形 大丈夫そうですか～？  
人間 え、まだちょっと、慣れないんですけど。  
幽霊 楽しくはなかった……。 (ドローンに向かって)  
人形 はい、まあ、それはまず平地でね、慣らしていくことですね。  
人間 はい。  
幽霊 楽しくはなかったんだけども。 (ドローンに向かって)  
人間 そうですね。  
幽霊 驚きはなかったんだけども。 (ドローンに向かって)  
人形 見えました？  
人間 え。  
人形 見えるように。  
人間 いや、、、え？  
幽霊 あ、それは、わたしのことか？ (ドローンに向かって)  
人形 あ、はい、そうですね、そうしたら、まあ、息の方をですね、えー息できましたら  
ですね、またですね、言っていただければ、はい。

ドローンは相変わらず出演者の周りを回り続けている。その間、四人は、客席側にある投身練習場のバリケードを持ってきて、円卓状に4つの小さな囲いをつくり、その壁に自分の着ている服を脱いでかける。スマホは地面に置き、Aはイヤホンも取って置く。(図1を参照)

## 欲望ミーティングあるいはセラピー

この章は、以後、役のある場所に移動しながら言葉を発する。

ゆるやかな、にこやかな、穏やかな、その場。全員が、同じ目的を持ってやってきていることがわかる。幽霊役を除いて。出演者全員が揃ったら、以下の会話。

吸血鬼B わたしは、人から見捨てられないような、価値のある人間になりたい、と思っています。  
人形C すばらしいですね、それはとても大事なことです。  
人間A わたしは、人から攻撃されないような優しい人間になりたい、と思っています。  
人形D 本当にそうですね。攻撃されるのはとても辛いことですね。  
幽霊C わたしは、・・・セックスがしたいです。  
人間A はい。  
吸血鬼B どうすればそうなれるのか？とは、思っているんですが、実はなかなか考えているようで、考えられていないというか。  
人形D そうですね。もやがかかっている感じ？  
幽霊C あ～、やりてえ、やりてえす～！セックス～、あ～・・・  
吸血鬼A あ、あの、すごい自分が嫌な人間のように思ってしまうってこともあって、優しい人間であることが、そうなると思うえないというか。  
人形B はい、わかりますよ。  
幽霊D セックスツツ！！



人間C 価値のある人間になりたい、と強く思ってしまうのも、自分がどうしても捨てられてしまう、という思いからの部分があると思うんですね。

人間A はい。

人形B ですので、まずはそのぐるぐる思考をどう脱却するか、が大事だと思います。

幽霊D あん、あん、あん、あん～～～、あん、あん！！

吸血鬼C はい。

人形A ぐるぐる思考で、頭がうまく考えられていない、ということがよくあります。

吸血鬼B その感覚すでいよくわかります。わたしも、このセラピーにきて、原因があったこと自体も初めて知りましたし。

人間D そうですね。

幽霊B クソがあ！！

人形A 原因自体をどう書き換えるかですね。最終目的は、わたしたちの生存方法を別のやり方で書き換える、ということです。素晴らしいと思おう思おうとするんだけど、それができないのは、意思が足りないことでもなく、努力が足りないわけでもないんですね。その状態で何十年も生きてきたということは、生物としてまっとうな判断をしてきたと言えるわけです。あなたが簡単に書き換えられるのであれば、生きてきた中で、あなた生物として大丈夫？ということになっちゃうわけです。あなたが変わらなかったのは、生存方法がくっついていてというそれだけなんですよ～、ということをもまず理解することですね。

幽霊B あん～～～～、あん、あん！！

人間D 条件づけてしまうんですよ、最初に。なんか。こう、自分が正直にというか、自由に選択できない感覚というか。

人形C わかりますよ。そうなってしまいますよね。（Aの横から首を出しつつ）

人形A 条件付けの愛情でしか愛情を感じられなかったり、捨てられるとわかっているから甘えられなかったりする。だからこそ、まずは自分が何をしたいのか、どうしたいのか、を明確に言うてみることを。受け入れられることをですね、ちゃんと、自分がいなくなることで以外で経験するというか。

人間B 逆に自分がなくなっていく感覚になっていく、っていうのも重要なところなんですかね。

吸血鬼D そこですよ、そこ～、そこがあんまり、分かりづらい感じというか。どうなるといいんですかね？きっかけみたいなのって、あるんですか？

人形C あ、それは、なかなか、まあ、やっていくなかで、見えてくる部分っていうか、やっていく中でしか、そういう感じでしかわからない部分もあって、どうしても行動っていうか、お話しのみでできることっていうのは、あんまり、・・・そうなんですよね。

幽霊A あ～、ビンビンだ！ビンビン。

人間B そうですか。

幽霊A うん、ビンビンだ。

吸血鬼D でも、いまのこの状況みたいなことですよ。

人形C そうですね。もうこの場に来たこと自体が、もうすでにわたしたちの書き換えが始まっていく、とも言えるというか。

吸血鬼A そういう風にポジティブに考えていく、ってこと自体も、ほんとすでい。

人間B そう言ってもらえると。

幽霊D あ～！あ～～！いくよ～～～、いく～～～！！

吸血鬼A あのッ！！

人間B うるさいッ！！

幽霊D はい・・・わたしは・・・セックスがしたいです。

人形C ・・・死ぬ。

AとBは最後に場所を入れ替わり、最初に位置していた場所へ移動。人形役から、ひとり、またひとりと服をバリケードから取って再び着ていく。幽霊役だけが残る。服を着終わったら、バリケードを最初に置いてあった別の場所に乱雑に置く。バリケードが壊れていくイメージで。

## それぞれの儀式

それぞれの出演者たちは、一人一人の「うまく落ちるため」の儀式を行う。儀式は以下のルールによって、それぞれ一人ずつ行われる。また儀式自体は、人間と幽霊以外は、物語の当初より行われているものとする。ただし、吸血鬼は真面目だったが、徐々に適当に。人形役は一貫して適当に儀式を行っている。以下は儀式を開発するための指示書である。

### <指示書>

- ①主体A,B,C,Dそれぞれ自分自身が冒頭に引用した『息』を一人で上演し続けること、を第一目標とする。
- ② さらに①を継続していく上で、自分自身が内在的になれる、自分しか見えないようになる身振り、特に無意識化でやったうえで、他者に指摘され、発見されるような身振りを考える。
- ③ ②のうち2つの身振りを選択して、それを連続して行う。
- ④ ③でやったことを他の出演者たちによって模倣してもらおう。その際、正確に模倣するよりも、劣化させるように、省くように真似るようにする。
- ⑤ ③は、自分自身が行う最初の役に紐づけて行う。例えば、人間役ならA、吸血鬼役ならB、人形役ならCという風に。物語の後半、役が変わった後に行う儀式は、その役に紐づけられた儀式を強調して行い、それまで行なっていた儀式は劣化して続けて行う。つまり、役が交代するたびに、自身が行う身振りは増えていき、他者が開発した現在自分が演じている役の身振りを強調して行い、今までの自分自身が行ってきた身振りは劣化していくのである。
- ⑥ 以上の儀式は、今後の投身練習装置での役をつけて行なっている際は、他に指示のない場合に限り、繰り返し行い続けるものとする。

以上の儀式を、それぞれが一人ずつおこなっているのを、全員が見ている様子。

人形 じゃあ、わたしがまずやります～

人形は儀式を行う。人間と吸血鬼のやる気のない拍手。幽霊役は、全員を見て真似しようとする。

吸血鬼 じゃあ、次、わたしやります～

吸血鬼は儀式を行う。人間のやる気のない拍手、それを見ながら真似する幽霊。

人間 じゃあ、最後、わたしやります～

人間はイヤホンを再びつけて、儀式を行う。幽霊は人間を見ている。

### うまくなると、見えてくる。見えなくなる。

それぞれの儀式の発表が終わると、それぞれ練習を開始する。あるいは、お互いの様子を見ている。儀式をしっかり行おうとする人間。幽霊は、人間を指人形で真似しながら、指人形を投身練習場のいたるところで、遊ばせている。(□)は、吸血鬼が儀式中、息を吐くタイミングで息が続く限り言い続けている。

(□・吸血鬼)

わたしはやせたい。わたしはやせたい。わたしはやせたい。わたしはやせたい……。  
わたしはモテたい。わたしはモテたい。わたしはモテたい。わたしはモテたい……。  
わたしは食べたい。わたしは食べたい。わたしは食べたい。わたしは食べたい……。  
わたしは愛されたい。わたしは愛されたい。わたしは愛されたい……。

人形 いいっすね。

人間 はい。

人形 見えますか？

人間 あ～ 最初の頃とは全然。

人形 見えてきてんすよ。

人間 そうです、かね？

人形 はい。

人間 あれ言わなきゃダメですか？

人形 そうですね、そうしてもらったほうが、はい。

人間 あ～

幽霊 あなたは、これからどのように落ちるのか、にわたしたちの注目が集まっている。

人間 あ～、え？(一瞬イヤホンを取りながら)

人形 やりましょう。

幽霊 これから、わたしの言うことをよく聞いてほしい。

人形 いきいきしましょう。

幽霊 わたしは、あなたにしか言ってない。

人形 はいもっと～

人間 はい。

幽霊 わたしは、あなたにしか言ってない。

人形は、今度は上手側に行き、再び休憩する。人間は、それを見たあと、人間と吸血鬼、主体Aと主体Bとなる。Aはイヤホンを取る。

A ここら辺なんかなかったっけ？

B 動いてたよ。見えてなかったの？

A うん。

B 声は？・・・聞こえてる？

A なんか聞こえる。

幽霊 聞こえてますよ。

B あ、聞こえてるんだ。

ドローンが上手のマケットにやってくる。幽霊は、上手のマケットまでやってきて、指人形を用いた人形劇を行う。他の出演者は投身練習場で行われる日常の儀式を引き続き行う。ドローンは、移動して上手の幽霊の近くに行った後、すぐにまた演出家（役）の机に戻る。

その間、以下のセリフと同時並行で、人形と人間は儀式を続けている。その時のセリフは（☆）で表す。人間はイヤホンを再びつける。

（☆）

人形 はい、ぜひ、どんどん～～

人間 はい。

人形 はい、ぜひ、いきいき～～

人間 はい。

人形 どんどんどんどん、ぜひやりましょう。

人間 はい。

人形 ぜひね、どんどん、やっちゃって。

人間 はい

幽霊 これは、投身練習場です。そして、これは、わたしです（指人形を指差しながら）。わたしは、これからうまく落ちる練習を行います。1段目、2段目、3段目とどんどんうまく落ちることに近づいていきます。わたしは、これから、どんどんうまくなっていくでしょう。そして、このわたし自身に近づいていくでしょう。（スマホを取り出しながら）この中にいる吸血鬼さんに話を聞いてみたいと思います。（スマホから電話をかける）吸血鬼さん～、こんにちは！吸血鬼さん～～！

吸血鬼 あ～～～～。（手をいろんな形に変えながら）

幽霊 こんにちは～。吸血鬼さん？

吸血鬼 あ、はい。吸血鬼です。（スマホを持ち、手のかたちがようやく指人形となった。声が明らかに変わっている）

幽霊 こんにちは。吸血鬼さん。いま、そっちの世界では、相変わらず人間たちの血を吸いまくっていますか？（幽霊も明らかに声がかわっている）

吸血鬼 もうダメです。

幽霊 吸血鬼さんは、もうダメです。

吸血鬼 人間はほとんどいなくなっていました。

幽霊 そうですか。なら、わたしみたいになりますか？

吸血鬼 そうなるとおもいます。でも、最後に生きている人間を見つけました。わたしは、最後にこの人の血を吸いたいと思います。最後に血の味を知ってから、無様に、少しでも、生き永らえたいと、そう思っています。

幽霊 あ～、意味ないですね。

吸血鬼 そうかもしれません。合理的には。  
幽霊 でも血を吸いたくてしょうがないわけですね。  
吸血鬼 渴きがどうしようない。  
幽霊 そうですか。  
吸血鬼 あ、目が。(声が元に戻る)  
幽霊 え?(声が元に戻る)  
吸血鬼 目が落ちてしまいました。  
幽霊 あ～。

その後すぐに、吸血鬼は、以下のセリフ(■)へ移行。「息」を吐くタイミングで連続して発話する。

幽霊は、吸血鬼の落ちた目(スマホ)を拾いに投身練習場まで戻り、それを拾う。そして、人間を再び見ながら身振りを模倣する。そして、幽霊の身振りも人間の身振りに移ってしまう。それを見つける人形。

人形 ダメですよ！それ！  
人間 ……はい。

(■、吸血鬼)

わたしは、もっとお金を稼ぎたい。わたしは、もっとお金を稼ぎたい。わたしは……。わたしは、もっと自由になりたい。わたしは、もっと自由になりたい。わたしは……。わたしは、もっと幸せになりたい。わたしは、もっと幸せになりたい。わたしは……。わたしは、もっと楽になりたい。わたしは、もっと楽になりたい。わたしは……。

人間は幽霊の身振りとリンクしていくようだ。その度に、人形から注意される。幽霊は人間をしっかりと見つめているが、人間はまだ気づかない。

人形 ダメだって。  
人間 はい。  
人形 ほらまた。  
人間 あ～。

幽霊は、人間を吸血鬼の目(スマホ)によって写真を撮影する。カシャっという音。人間はその吸血鬼の目(スマホ)を見て、幽霊から手渡される。人間そのスマホを見ながら、幽霊と一緒に写真を確認しようとする。その瞬間を見た人形、すぐに吸血鬼の目(スマホ)を奪い取りながら。

人形 あ！！ダメダメ～～！！ダメですよ～～～。それは、ダメ～～。  
人間 あ、ごめんなさい。  
人形 勝手に変えちゃうと、危ないので、呪われますよ～～。ダメでしょう！！ね、誰が誰だかわかんなくなっちゃうでしょ。  
人間 はい、すいません。

人形 気をつけてくださいね。みえますから、ちゃんと。見えますから。ぜひね。気を引き締めていただいて、ぜひね、お願いしますね。

人間 なんか、勝手にそうしちゃって。

人形 いや、ほんと。

人間 すいません。

人形 はい。

(間・人間は儀式を続ける)

人間 普通にありがとう、って言いたい。普通にありがとう、って言いたい。普通にありがとう、言いたい……。 (息を吐くタイミングで言い続ける)

人形 言えればいいじゃないっすか！言ってくれていいんですよ～。やりたいことを言ってく。それもめっちゃくちゃ大事なんですよ。ぜひね。

人間 はい、すいません。

人形 いやいや、そこは、ありがとう、って言っていきましょ。どんどんやっちゃいましょう。チャレンジチャレンジ。いきいき、いきいき。

人間 あ、はい、ありがとう。

人形 いやいや、言わせたみたいになってんじゃ～ん！もっと、楽しんでってくださいよ。だいぶ慣れてきたでしょう？もっと、ぜひにね。ばんばんやっちゃって。

人間 はい。がんばります。

## 幽霊と人間が会ってしまったこと

それぞれが『息』を吐くタイミングでのコミュニケーション。人間はどんどん幽霊との二人三脚具合となっていく。人形と吸血鬼は、下手のプロジェクションに映しだされた写真(写真1を参照。仮囲いが写っているものが良いが、実際の写真は演出家の意図に依って選ぶこと)を見ながら、以下セリフ。人形と吸血鬼は、この時の人間をもはや人形の秩序の外に置こうとしていく。下線部の人間からのセリフは任意のタイミングで行う。

人形 そろそろ、フリーでやってみましょうか。

吸血鬼 お、いいっすね。

人間 フリー？

人形 あ。どこでも投身が可能になるってことですね。本来ならばですね、このよう  
なわかりやすいような場所ってというのは、ないわけですので、なので、どこでも  
できる、っていう、どこでもフォーリングできる、っていうことをですね、まあ、意識  
する必要があるんですね。

吸血鬼 これは、どこから始まりますか？

人形 こっちからこう下がっていくように、はじめます。

吸血鬼 あー、こっちからですか。わかりました。

人間 なにをするんですか？

人形 フリーフォールです。

人形 えっと、まずはこちらですね。

吸血鬼 はい。・・・あ。

人形 どうでしょうか？

吸血鬼 しましまのスポンジみたいな安全のための緩衝材みたいなものがここにあるので、まずはここに行ってみます。

人形 最初はムーヴがわからず混乱することが多いんですけど、トライするごとに、やっぱりね、優しくなってくる、ってことが多いかもですね。

吸血鬼 はい。・・・ご、近、隣、の、皆、様、へ。

人形 お、いいですね。どんどん声に出していきましょう。

人間 わたしは、ちょっと、まだよくわかんないんですが、もうすこし説明というか、、、あの、すいません、あの、、すいません、、（息が途絶える）。

人形 あ。そうですね、・・・ちょっとまた改めて、という形で、すいません、ちよつとこちら、先にやっちゃいましょう。

吸血鬼 すいません。

人形 次はどこにいきますか？

吸血鬼 この部分に行きたいです。

人形 いいですね。

吸血鬼 あ。そのあとは、ここまで落ちちゃっても？

人形 はい、いいです。

吸血鬼 あ～、身体の中巡っているみたいですね。

人形 はい。

吸血鬼 落ちてるんだが、上に昇っているんだか、分かんないですね。

人形 はい。

人間 儀式しなくていいんですか？

人形 儀式してください～

人間 ・・・。

人形 あ、大丈夫です。わたしプロなんでね、どんどんやっちゃいましょう。

吸血鬼 あ、ここまで落ちました。

人形 はい、そうしましたらですね、ここからは結構何も無いという状況が続きますので、え～、ちょっとした汚れですとか、傷ですとかですね、経過したりしてもいいかもしれません。

吸血鬼 あ～、落ちるというよりも、辿っているという感じ。

人形 はい。

(★)

(☆)

人間のセリフは、すべて独り言として処理されていく様子。幽霊は人間と並走している。幽霊は人間を凝視し、人間は、幽霊とそれ以外の観客を含めた人間へ向けて発話する。吸血鬼と人形は相変わらず、「フリーフォール」をやっている様子。その間、上記幽霊と人間(☆)から、以下のセリフ。また、(★)から、人形と吸血鬼のセリフ。

(★)

わ～～

あ～～～

ひゃあ～～

あ～たくさんある。  
あ～今の戻れないか～  
下を覗きたい。  
フォーム変えてみよう。  
気にすんの疲れた感。  
まだまだ全然行っちゃってください。  
お～。  
全然落ちれる感じ。  
こちら辺、ノンストレスって感じで。  
全然落ちれる感じ。  
あ～全然慣れますね。  
安心する。  
はい、落ちま～す。  
頼りにしたいですね、意外と。  
はい。  
引っかけりやすそうだから。  
はい。  
ゆっくり行けそうな気がする。  
はい。  
こっからだいぶいっちゃいますね。  
はい。  
全然行けますね。  
右とか？  
いや、まだ。  
いっすね。  
ここ、ちょっと止まりたい！  
いっすよ。  
いくしかないか。  
波は？  
あ！ちょっと穏やかかもしれません。  
もうちょっとで終わっちゃいますね。  
怖くはないです。  
最後まで悪いです、ここ、慎重に。  
あ、これ気にしていいんですか？  
はい。  
あ～、でも、そういうのに頼っちゃいけない気がする。・・・あ～止まった。  
はい、以上ですね。お疲れ様でした。  
ありがとうございます！この先はどうなってるんですか？  
ぐるっと、こう、回って行ってます。  
あ、続くんた。  
そうですね。  
そのあとは、どうでしたか？  
まだね、それは、誰も、なんですよ。見たことがね。



(☆)

人間 わたしは、やせたいので、落ちますよ。わたしは、やせたいので、落ちますよ。わたしは、やせたいので、落ちますよ。わたしは、やせたいので、落ちますよ・・・。

幽霊 わたしは、モテたいので、落ちますよ。わたしは、モテたいので、落ちますよ。わたしは、モテたいので、落ちますよ。わたしは、モテたいので、落ちますよ・・・。

人間 わたしは、愛されたいので、落ちますよ。わたしは、愛されたいので、落ちますよ。わたしは、愛されたいので、落ちますよ・・・。

幽霊 わたしは、もっと自由になりたいので、落ちますよ。わたしは、もっと自由になりたいので、落ちますよ。わたしは、もっと自由になりたいので、落ちますよ・・・。

**(幽霊は、このタイミングより徐々にバリケードを再び「欲望ミーティング～」と同じ場所にセットしていく)**

人間 わたしは、もっと幸せになりたいので、落ちますよ。わたしは、もっと幸せになりたいので、落ちますよ。わたしは、もっと幸せになりたいので、落ちますよ・・・。

幽霊 わたしは、もっと楽になりたいので、落ちますよ。わたしは、もっと楽になりたいので、落ちますよ。わたしは、もっと楽になりたいので、落ちますよ・・・。

人間 わたしは、なりたいものに、なりたかったですよ。わたしは、なりたいものに、なりたかったですよ。わたしは、なりたいものに、なりたかったですよ・・・。

**(幽霊はセットし終える)**

幽霊 なりたいものなんてないけどね。・・・なんだって、わたしだけどね。

人間 わたしは、こうなりたい、

幽霊 わたしは、こうなりたい。

人間 ですよ。

幽霊 ので、これから、これに、なります。

## 結局は一人、繰り返される役

幽霊と人間は服を脱ぎ、幽霊は人間役の服を着て人間役になる(人間A→D)。その後、人間は、やってきた人形役の服を着て人形(人形C→A)となり、人形は最後に遅れてやってきた吸血鬼役の服を着て、吸血鬼となる(吸血鬼B→C)。吸血鬼は最後に残った服を逡巡しながら着て幽霊となる。幽霊役になったBは、服を着た瞬間、崩れ落ちて寝そべる。(幽霊D→B) 目は閉じていない幽霊役=B。

幽霊以外の役柄になった、それぞれの出演者は服を着たあと、すぐに今着ている役の儀式を一度は行う。人形役となったAは、一度儀式をしたあと、下手に休憩へ向かいスマホをいじる。それを見届けた、人間と吸血鬼は、CとDとなり、新たに幽霊役となったBを、投身練習場に連れていく。

- C やろう！  
 D あ～・・・もう何回めだっけ？  
 C 顔変わったこと？  
 D そうそう。  
 C あ～、数えるっけ？そういうの？  
 D ごめんごめん。  
 C やるか。  
 D うん。（ここで倒れた幽霊役を運びに行く）  
 C 次はどうするの？  
 D 次か～。どうしよっか。  
 C 次は、・・・幸せに見える？  
 D う～ん、わたしは、ありがとうって言えれば、それでいいや。  
 C え、言えればいいじゃん。  
 D 言えるかな？  
 C だってもうわたしの気持ちくらいわかるよ。何回やったと思ってるんだよ。  
 D そっかそっか。

以下セリフ中、最初の段階で幽霊が起き上がり、人間のそばに幽霊が立つ。その瞬間、人形も起き上がって人間Dに近づく。

人形 じゃあ、これから、インストラクションの方をはじめていきます、ということ  
 でね、儀式について、息をすって～、はいて～、みたいなことから、次の、自分のや  
 りたかったこと、自分ができそうでできなかったこと、そういう欲望とかですかね、  
 できなかった、諦めとかですかね、そういうのをどンドン口に出していく、ぜひね、  
 いって行く。

人間 はい。（人形から手渡されたイヤホンをつける）

人形 特定の相手とかですかね、まずは自分にね、ぜひね、自分のためにね、自分  
 のために言っていく、ということですね。呪文みたいなものだと思ってもらえるとか  
 わかりやすいかなあと思っています。

人間 はい。呪文。

人形 最近、うまくいかなかったな～、死にたいな～、と思っていること、あります  
 か？どンドン言っちゃいましょう。

人間 あ・・・。

人形 あはい、ね、わたしプロなんでね。大丈夫ですよ、みなさん、そういうものだ  
 という風に考えておりますので。ぜひね、いきいきしましょう。そのためにね、あえ  
 てね、言うってこと、口に出しちゃう、ってプロセスが大事になってきますね。

人間 はい。・・・わたしは・・・、わたしは・・・、わたしは・・・

幽霊は、人間のすぐ後ろに立って、人間をじっと見つめている。人間、イヤホンを取る。  
 ドローンが投身練習場にやってくる。そのタイミングで、「欲望ミーティング～」の章と同  
 じ立ち位置で、それぞれの出演者は移動する。場所は、それぞれの出演者が違う役柄になっ  
 た場所に合わせて、（図1）と同じ初期位置にいる。（図2参照）

ドローンは一回りした後、演出家机に再び戻る。そのタイミングで、以下セリフ。

人間D ……わたしは、幸せになりたい、と思っています。  
人形B わかりますよ。とても大事なことです。  
人間D いや、本当に、そう思っているんです。  
人形B わかりますよ。  
幽霊A あ、セックスですね。  
吸血鬼C わたしは、もっと、自由になりたい、と思っています。  
人形D わかりますよ。いろんな束縛が辛かったですよね。  
吸血鬼B はい、自由になったら、まずは自分の幸せについて、考えてみるつもりです。  
人形A わかりますよ。とても、よくわかる。わたしもそうです。  
人間C あの。  
幽霊D あ！セックス……。  
吸血鬼B わたしは、死んだ後に、幸せだったな～、と言える人生にしたいと思います。  
人間A いや、わかるんですけど。  
吸血鬼C はい。  
人形B あ～、ですから、それがぐるぐる思考なんですよ。  
人間A そっか、結局、そうなっちゃいますね。

次に、それぞれの「儀式」を発表し合う。

人形 じゃあ、わたしがまずやります～

人形は儀式を行う。人間と吸血鬼のやる気のない拍手。幽霊役は、全員を見て真似しようとする。

吸血鬼 じゃあ、次、わたしやります～

吸血鬼は儀式を行う。人間のやる気のない拍手、それを見ながら真似する幽霊。

人間 じゃあ、最後、わたしやります～

人間はイヤホンを再びつけて、儀式を行う。幽霊は人間を見て、人間の動きを指人形で模倣しながら、徐々に上手にあるマケットで指人形を行うように移動。他はまた投身練習場で儀式をしながら練習する。吸血鬼は(●)を『息』を吐くタイミングで言い続ける。

(●・吸血鬼)

わたしは愛されたい。わたしは愛されたい。わたしは愛されたい……。  
わたしは、もっと幸せになりたい。わたしは、もっと幸せになりたい。わたしは……。  
わたしは、もっと楽になりたい。わたしは、もっと楽になりたい。わたしは……。

幽霊 これは、今のわたしです。わたしは、もう何回めかのわたしです。吸血鬼さん～。

吸血鬼 ……（指人形のかたちにチューニングするように手を動かしながら）

幽霊 吸血鬼さん～～！

吸血鬼 はい、吸血鬼です。（とてもふらついている指人形。声を変える）

幽霊 そっちはどうですか。（幽霊もまた声を変える）

吸血鬼 もうダメです～。

幽霊 相変わらず、吸血鬼さんは、もうダメです。

吸血鬼 だいぶ前に、目も落としちゃって、ずっとなにも見えてないんです。

幽霊 そうですか。

吸血鬼 もうわたしは諦めました。

幽霊 そうですか。

吸血鬼 そっちはどうですか？

幽霊 こっちも、もう……どんどん先に進んじゃいます。

幽霊と人形の声は、元に戻る。幽霊は再び投身練習場に戻り、人間の背後に近づく。人形と吸血鬼は、「フリーフォール」をしていた場所へ行って、（写真1）を見ながらセリフ。（セリフは★をなん度も繰り返す）

（★・吸血鬼と人形）

吸血鬼 全然いけます。

人形 いいっすね。

吸血鬼 こことか。

人形 はい。

吸血鬼 ここ楽しいです。

人形 はい、どんどん～

人間 わたしは、自分が言いたいことを言いたいですよ。

幽霊 わたしは、自分がしたいことをしたいですよ。

人間 結局また違うわけですね。

幽霊 なんだって、わたしだけだね。

人間 わたしは、こうなりたい、

幽霊 わたしは、こうなりたい。

人間 ですよ。

幽霊 ので、これから、これに、なります。

幽霊と人間は服を脱ぎ、幽霊は人間役の服を着て人間役になる（人間D→B）。その後、人間は、やってきた人形役の服を着て人形（人形A→D）となり、人形は最後に遅れてやってきた吸血鬼役の服を着て、吸血鬼となる（吸血鬼C→A）。吸血鬼は最後に残った服を逡巡しながら着て幽霊となる。幽霊役になったCは、服を着た瞬間、崩れ落ちて寝そべる。（幽霊B→C）

幽霊以外の役柄になった、それぞれの出演者は服を着たあと、すぐにその役の儀式を一度以上は行う。人形役となったDは、一度だけ儀式をしたあと、上手に休憩へ向かう。

AとBは、新たに幽霊役となったCを、投身練習場に連れていこうとする。

B やるか！

A あ、今回最速じゃん。

B ね～。

A もう時間なんて、意味ないってことかな。

B やろう！（幽霊を投身練習場に引きづりながら）

A 休憩みじけ～。

B つら～。

幽霊役は、投身練習場にAとBによって置かれた瞬間から立ち上がる。上手で休憩していた人形は、起き上がってすぐに以下セリフ。その瞬間AとBは、吸血鬼と人間となる。

人形 それではインストラクションの方、終わらせていただきます。

人間 はい。

人形 どうしたいですか？

幽霊 わたしは、あなたに幸せになってほしい。

服を、全員脱いで、床に置く。

人間 はい、わたしもです。

幽霊 だったら、わたしは、これになります。

人間・人形 わたしも、これになります。

幽霊は人間役の服を着て人間役になる（人間B→C）。人間は、人形役の服を着て人形（人形D→B）となり、人形は吸血鬼役の服を着て、吸血鬼となる。（吸血鬼A→D）

吸血鬼は最後に残った服を逡巡しながら着て幽霊となる。幽霊役になったAは、服を着た瞬間、崩れ落ちて寝そべる。（幽霊C→A）

幽霊以外の役柄になった、それぞれの出演者は服を着たあと、すぐにその役の儀式を一度以上行う。人形役となったBは、一度だけ儀式をしたあと、すぐに投身練習場に寝転がってスマホをいじりながら休憩へ。

CとDは、新たに幽霊役となったAを、投身練習場に連れていこうとする。

人形 変じゃない？

幽霊 うん。

人形 どうする？

幽霊 いや、でも、やるしかないっしょ。

人形 うっす。

幽霊役A、投身練習場に連れられるや否や、すぐに立ち上がり、服を脱ぎ、人間役のCに服を渡す。

幽霊 ありがとう。

人間 うん。

幽霊 幸せになってね。

その後、着せ替えられた服をひたすら、それぞれの服で渡し合う身振り。「ありがとう。幸せになってね。」と言い合いながら。お互いが服を渡し合う。

最後、元幽霊役Dにすべて服を押し付けられる。投げつけられるように、元幽霊役Dへと服が投げられる。役がなくなったA,B,Cは、それぞれのスマホを持って、撮影ゲームを行う。撮影ゲームとは、それぞれをスマホ内の撮影機能を使いあいながら、「だるまさんが転んだ」の遊びを行うこと。撮影されていることがわかっていれば、止まって、撮影されていないことがわかっていれば動いて良い。そして、撮影をしているスマホをタッチしたら終わり、という遊び。

さて、取り残された元幽霊役D。投げつけられた服を、一つ一つ着ていく。服を着るたびに、その役に紐づけられた身振りを行う。一枚一枚着ていき、ひとつひとつの身振りを丁寧に行う。全て着終わり、儀式も行った後、すべての儀式を行いながら、上手のマケットへ。

### 最後の一人、投身する。

役を着させられている元幽霊役Dは、マケットに行き、今度は指人形を使って、これまでの行為を劣化させた形で再演し続けている。その間、撮影ゲームをしながらA,Bの会話。

A あ、休憩いつまでだっけ？

B あ～、多分、あと、30分くらいあるんじゃない。

A オッケー。

B あの、夢のやつ。

A ん？

B そのあとさ、夢見た？

A 夢？なんだっけ？

B 落ちる夢ってやつ。

A あ～、見てない。

B そうなんだ。

A うん。

B 落ちた瞬間目が覚めたんだっけ？

A いや。なんで？

B いや、いいな～っと思って。

A え。

B 飛んでる夢とかめっちゃいいじゃん。

A あ～、でも、あれ？いつ目が覚めたんだっけ？

B あ。

ドローンが飛び上がって、元幽霊役Dの元へ。元幽霊役Dは、マケットのある上手から投身練習場の方へ向かう。ドローンをA,B,Cは一斉にちらっと見るが、相変わらず、ゲームを続けている。元幽霊役Dはドローンを見つめながら、以下セリフ。

元幽霊D 何を見てるんですか？

ドローン ……。

元幽霊役D そこにもなにもないですよ。

ドローン ……。

元幽霊役D もう、なんにも考えられないです。わたし、たちは。

ドローン ……。

元幽霊役D 何も見てないですよ。わたし、たちは。

投身練習場の一番上に向かって、元幽霊役Dが登っていく。

C あ、そこ危ないっすよ。

元幽霊役D はい。知ってます。

C あ、あと、ありがとうって言えた？

元幽霊役D はい。

C そっかそっか。…うまく落ちれたらいいっすね。

元幽霊役D はい。

投身練習場のでっぺんまで登る元幽霊役D。相変わらず、元幽霊役D以外はゲームを行なっている。ドローンだけがその元幽霊役Dの様子を見ている。元幽霊役Dは今まで行っているすべての儀式を圧縮して、一つにしていくように動く。一つにできたな、と思うタイミングで以下セリフを行った後、投身練習場の最も高いところから飛び降りる。

元幽霊役D ありがとうございます。

落ちた瞬間。暗転。元幽霊役D動かなくなる。ドローン、ゆっくり降下していく。A,B,Cは、スマホの画面をつけたまま、スマホを床に置き、上手から退場。音楽は鳴り続けている。スマホの画面は1分ほどで消えていく。

プロジェクターにて以下の文章が映し出され、ややあって消える。

「2095年8月6日

わたしたちは、ついに勝利する。」

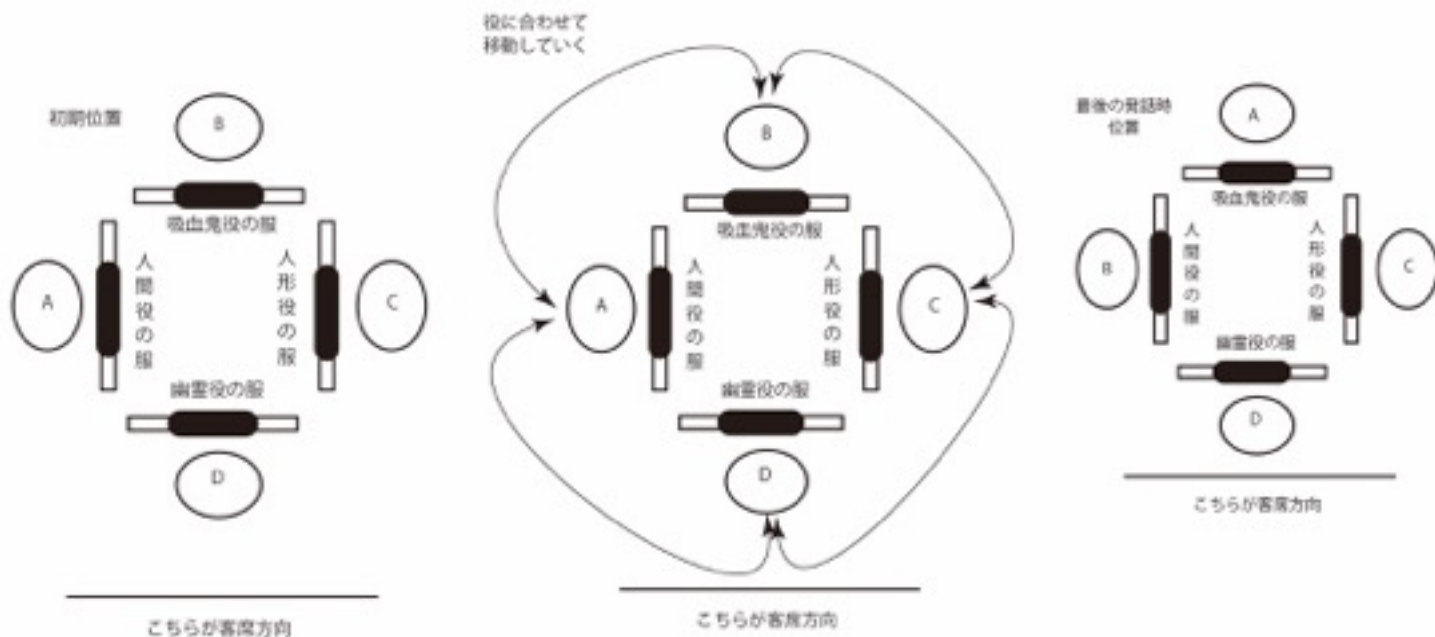
人間たちとの戦いに。」

音楽が消える。元幽霊役Dの呼吸の音だけが残る。明転とともに幕。

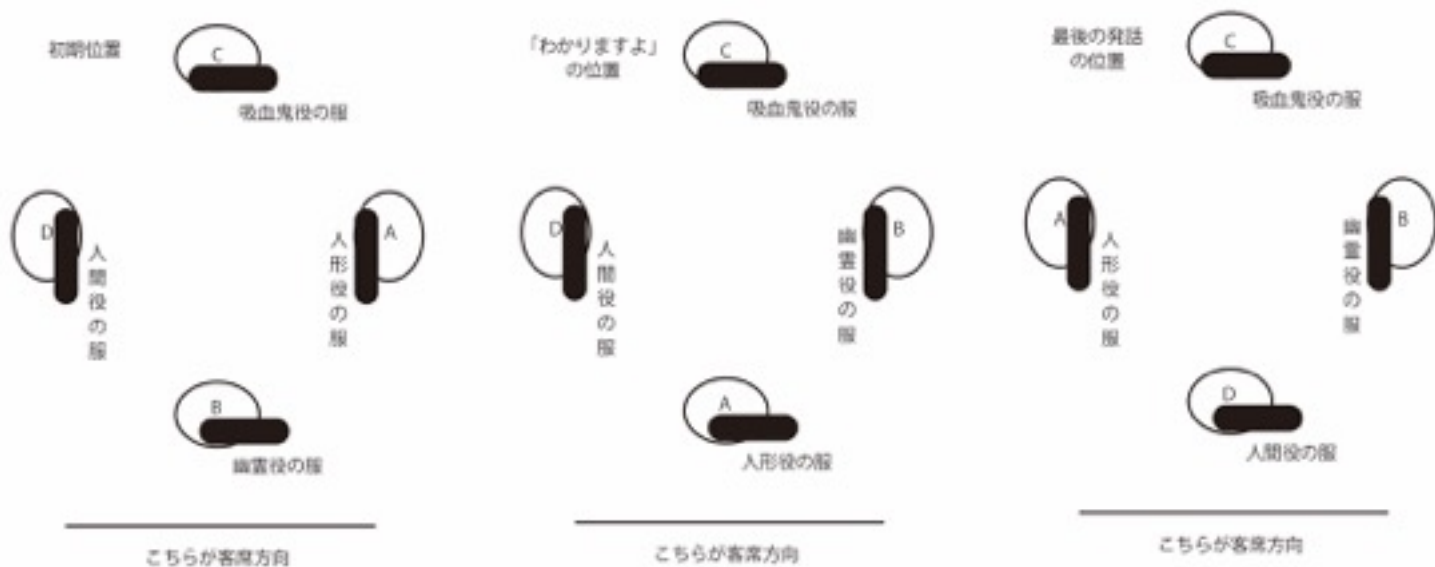
うまく落ちる練習（42枚） <了>

(図1)

小さなバリケードの前にいる4人の出演者は、以後着ている服ではなく、服をかけられたバリケードの前にいる場所に役は依存するようにする。



(図2)





(写真1)  
(引用図版：AKIRA ART WALL  
大友克洋 x 河村康輔 x 渋谷PARCO)





